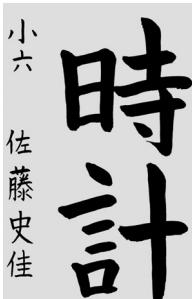


書塾の仲間たち

第 244 回

けいあい

桂愛かきかた書道教室（埼玉県さいたま市）



●書塾からひとこと●

当教室は、私立桂愛幼稚園の二階にあり、在園児をはじめ、子どもたちがにぎやかに日々練習に励んでいます。私にとっては1999年に開設した春日部の教室に続く二つ目の教室です。2006年に開設した当初は10名程度の教室でしたが、生徒さんの活躍で現在は90名近くのお子さんをお預かりしています。

教室では幼児の頃から、正しい姿勢や鉛筆の持ち方、ひらがなの書き順、美しい文字の形を、ゆっくりと繰り返し指導しています。また、たくさん的人が練習する教室でお互いに気持ちよく練習できるよう、整理整頓の習慣づけも意識しております。

日常の練習では月刊『書写書道』誌の課題に取り組んでいます。美しい文字が書けるよう、丁寧に練習を積み重ねていて着実に力を付けていると感じます。ほかにも、県の展覧会や大会に向けて、日々の練習の成果を発揮できるよう特に力を入れています。

中でも、春日部の教室から参加している全日本書初め大展覧会の席書大会は大切な行事です。参加したお子さんは、その経験で自信がつき、大らかで伸びやかな文字が書けるようになつたと感じます。

近年開催中止が重なった中でもそうした練習を続けてきたことで、県の展覧会で多くの児童が代表として大きな賞をいたきました。中には自分の結果に悔しさで涙する子もいます。悔しいと思えるのは頑張った証拠。それでも「来年はもっと頑張る！」と目標を新たにする子は多く、真剣に取り組むことでしか得られない自信と成長を感じます。現在は、展覧会の練習で身に付けた力で改めて『書写書道』誌の練習に励んでいます。

子どもたちの日々の積み重ねが、書く力だけでなく、精神的な成長にまで感じられます。「継続は力なり」と強く実感します。これからも一人一人の個性に寄り添い、書くことが大好きな子どもたちを一人でも多く育てられるよう、精進してまいります。

桂愛かきかた書道教室 古旗 京子
※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

た。

わたしは字をきれいに書くために、えんぴつの正しい持ち方としせいを意識するようにしていますが、持ち方や足をそろえるしせいを守れなかつたりする時もあります。きそを大切にしてえんぴつの持ち方からがんばつておけい古しようと思います。

これからも字をきれいに書く工夫を自分でもさがしていこうと思います。

学年 小三	小四 小五	現段級	級	氏名 米山 えりか



あきらめずに何度も練習

江東区立第五砂町小学校三年 米山 瑛梨佳 よねやま えりか

わたしは年中のころに月刊「書写書道」誌に出品を始めました。兄が教室に三年間通い、その後自たくて母と一緒に出品することになったので、わたしが入れかわりにお教室に通うことになりました。母も出品をしているので、きれいに書けた作品を見せてほめてもらえるとうれしくなります。

小学校のかきぞめでは、金賞をとるためにお手本をよく見てがんばりましたが、みんなもがんばっていて二年間で金賞を取ることはできませんで、きれいに書けた作品を見せてほめてもらえるとうれしくなります。小学四年生になり学校で毛筆のじゅぎょうが始まりました。三年生からかきぞめは毛筆になるのでもっとむずかしくなると思いますが、かきぞめまでまだ時間があるのであきらめずに何度も練習をして、今度こそ金賞を取りたいです。毛筆はこう筆のおけい古よりもわくわくして、何回も書きたくなります。きれいにバランスよく書くことを意識しつつ、むずかしい課題にもちょうどせんしたいです。毛筆はえんぴつのようには消しゴムで消せないので、一文字一文字に時間をかけてていねいに書こうと思います。こまでも毛筆もむずかしいですが、たくさん書くうちに楽しくなってきました。

です。

わたしは字をきれいに書くために、えんぴつの正しい持ち方としせいを意識するようにしていますが、持ち方や足をそろえるしせいを守れなかつたりする時もあります。きそを大切にしてえんぴつの持ち方からがんばつておけい古しようと思います。

これからも字をきれいに書く工夫を自分でもさがしていこうと思います。

二さい下の妹も私と一緒に習字を始め、先日、特別優秀作品に選ばれました。妹の立派な賞状を見て、私も次こそは得意気込んでいます。習字で学んだ集中力で、ほかの習い事や課題に取り組み、字ももつと練習して、先生のようにみんなに感動してもらえるようになりたいです。

ゆめに向かって、これからもがんばります。

私と書写書道 第244回

先生のような美しい文字を書ける人になりたい

兵庫県川西市立川西小学校四年 難波 彩 んば あや

学年 小四	小五	現段級	級	氏名 難波 彩



私のゆめはお医者さんになることです。病気やケガで苦しんでいる人やその家族など、たくさんの人をすぐえる人になろうと三さいのころから考えていました。そのゆめをかなえるためにいろいろな習い事をがんばっています。習字は一年生のころから習っています。習字の先生は、こう筆も毛筆も本当にきれいな字でかっこよく、私のあこがれです。先生の字を初めて見たとき、私もいつかこんな字が書けるようになりたいと心から思います。それから一文字一文字、ていねいに集中して日々練習にはげんでいます。先生は一年前、二年前に私自身が書いた字を見せてくださり、かく実に上達していることを実感しています。

また、ちょうど級できたときや、写真ばんにのることができた時の喜びと達成感はとびきりで、家族や先生によろこんでもらえることが何よりも嬉しいです。さらにやる気が出ます。日常生活でも学校の先生や友達にきれいな字をほめてもらえるのがとても嬉しく、先生に感しゃの気持ちでいっぱいです。

二さい下の妹も私と一緒に習字を始め、先日、特別優秀作品に選ばれました。妹の立派な賞状を見て、私も次こそは得意気込んでいます。習字で学んだ集中力で、ほかの習い事や課題に取り組み、字ももつと練習して、先生のようにみんなに感動してもらえるようになりたいです。